

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部)

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 研究科の目的、方針とカリキュラム構成(科目群)との関連を検討し、見直す。	→大学院諸問題検討委員会における検討数。	B
2. 研究科のカリキュラム編成における体系性と各授業科目の配置を見直すと共に、それに基づいてカリキュラムを改正する。	→大学院諸問題検討委員会における検討数。	B
3. 大学院生による各授業科目の教育内容をアンケート調査等により評価する。	→大学院生を対象としたカリキュラム編成や配置されている授業科目の評価を目的としたアンケート調査報告書の作成。	C
4. 高い実践能力や実証研究能力の涵養という目的と各授業科目との適合性をアンケート調査等により評価する。	→福祉現場で働く福祉職員や他の大学院教員によるアンケート調査の報告書の作成。	D

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(方針) 教育目的、方針とカリキュラム構成との関連、さらに各授業科目の配置を検討し見直す。教育内容や教育目的と授業との適合性を評価する。 (現状説明) 前期課程の完成年度が2009年度であり、2009年度は教育目的、方針とカリキュラム構成との関連、各授業科目の配置等のカリキュラム全体を変更することができないが、大学院諸問題検討委員会においてカリキュラム構成全体や各授業科目の適切性等を見直し、改正の可能性を検討してきている。
☆ 小項目6.2.2	(現状説明) 課程に相応しい教育内容を手提供しているかという点についても、2009年度は、大学院諸問題検討委員会で何度か検討を重ねてきており、今後改正する方向である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	
☆ 小項目6.2.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	
☆ 小項目6.2.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	
☆ 小項目6.2.2	
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	
☆ 小項目6.2.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価推進委員会からの評価＞（実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室）

- 【学外委員】
○「目標・指標」3,4への早急な対応が望まれます。
- 【学内委員】
○現状説明の記述は明確です。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ なし

Ⅴ. 本項目の評価指標

＜全学的な指標＞

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

＜個別的な指標＞

--	--